

# 諏訪市学校再編推進委員会(南部地区) が発足します。

諏訪市教育委員会 教育総務課

## <学校再編推進委員会設置の趣旨とこれまでの経緯について>



少子化や地域環境の変化などが学校教育の環境に少なからず影響を与えており、「子どもたちが地域の中で安心して学べ、確かな学力と豊かな心を身に付けるための新たな学校づくりが必要」として、平成 29 年度に、「小中学校再編基本構想検討委員会」から、「市内全体として施設一体型小中一貫教育学校（義務教育学校）を最終的に 3校設置する」ことを目標とする基本構想が示されました。それを受けて、平成 30年度に「未来創造ゆめスクールプラン」基本計画を策定しました。

令和 3年度に城北小と高島小を統合し、上諏訪中を含めた施設併設型小中一貫教育学校として開校し、令和 5 年度からは、施設が離れていても教育課程や児童生徒・教職員がつながる小中一貫教育を市内全校ではじめています。

また、令和 2年度に開催された総合教育会議※1において、次の小中一貫教育の重点地区を「南部地区」とすることが決定されました。

※1 総合教育会議

…首長及び教育委員会により構成され、現在の教育行政が置かれている現状や課題を認識し、これからのまちづくりや教育のあるべき姿を考える機会として開催される会議。

南部地区の学校再編整備について、令和 5年 6 月市議会定例会において、施設一体型の小中一貫教育学校を建設する方針を示し、検討の方向性を以下のように説明しました。

このたび発足する「諏訪市学校再編推進委員会（南部地区）」で課題を整理しつつ協議するとともに、地域の皆様、市民の皆様から都度ご意見をうかがいながら検討を進め、整備基本構想の策定を目指します。

## <施設一体型小中一貫教育学校とは>

小学校と中学校の施設を同一敷地内に設置し、義務教育 9 年間を一貫して行う学校。小学校と中学校で共通する 9 年間の一貫した教育目標を決め、学習や交流等 9 年間の学び方の連続性や教育内容の系統性・体系性に配慮した指導の工夫をして「中一ギャップ（小中の段差）」の緩和をしながら児童生徒の成長を支えます。また、これからの予測困難な時代に対応できるように、児童生徒一人ひとりの社会的自立を 9 年間を通じて育む環境を創る教育でもあります。

## <建設の候補とする場所>

四賀小学校・中洲小学校・諏訪南中学校を含む南部地区 3 校を中心的な対象として、現在の諏訪南中学校の敷地を活用し再編・整備することを目指します。

## <議会答弁から>

### 問：建設にあたってどのような新しい姿を思い描いているか。

答：すべての子どもは多様であることを前提に、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、「そろえる」教育から「伸ばす」教育への転換が求められています。南部地区小中一貫校では、1人1台端末が整備された環境のもと、子どもや学びの多様化に柔軟に対応できる、快適な学習空間、生活空間として学校施設を整備することを基本的な考え方としています。

空調整備やトイレ洋式化などはもとより、例えば、一人でもグループでも、多様な学習活動が展開できる仕様の教室、異なる学年が混ざり合い、緩やかにつながった学びの場となるスペース、日常的に小中学生が関わり合えるミックスゾーン、いつでもどこでも本に親しめ、好奇心や探究心を刺激する空間づくり、など、様々に想定されます。また、地域の人たちと連携・協働していくための活動・交流拠点の整備や、防災拠点としての機能強化なども考えられます。

加えて、学校施設そのものが環境教育となるべく、脱炭素社会の実現に向けた ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を目指した整備、さらには旧校舎や校地の活用なども欠かせない視点と考えます。未来社会のづくり手として可能性を秘めた子どもたちのため、「明日も行きたい」と思うような、保護者が「こんな学校に行かせたい」と思えるような、魅力ある学校施設の実現に向け、協議を進めます。

### 問：今後のロードマップは。

答：早急に再編推進委員会を立ち上げ、まずは、「学校建設に関する協議」を進めます。新しい学校を建設するための基本理念、建設場所や開校までのスケジュール、必要な機能、施設の特徴、周辺整備に関する事など基本的な方向性や方針についての「基本構想」を策定します。次に、学校の構造、教室の配置、各階の基本的なレイアウト、概算工事費等を「基本設計」としてまとめます。「基本設計」に基づき、建設工事に向けた詳細な図面作成や工事費の積算を「実施設計」としてまとめ、建築工事に着手するといった手順を想定しています。

### 問：周辺敷地の買取りについての考えは。

答：新しい時代の学びの実現に向けて必要な機能や空間を整備するなど、児童生徒にとってよりよい学びの環境を整えるという視点を大切に、用地買収も視野に入れながら、検討を進めます。

### 問：小学校から中学校まで基本は同じ学校に通うことになると思うが、通学区についての考えは。

答：「通学区をどのように整理していくか」についても、地域の方々や保護者など関係者と慎重かつ十分な協議をしながら進めてまいります。上諏訪小学校が令和3年度に開校した際には、城南小の一部の通学区を変更しました。これは小中一貫教育の開始に伴い、もともと城南小から上諏訪中に通っていた地区を上諏訪小の通学区に変更したものであり、その上で、兄弟が城南小に通っている経緯なども考慮し、経過措置を設け、城南小に通学することもできるよう規定しています。このほかにも、例えば、学校を選択できる規定にする、スクールバスを導入して、安全な通学に配慮した上で通学区を変更する、なども考えられます。いずれにしても、通学区については、あらゆる可能性を排除せず、推進委員会で検討していきます。

■ご不明な点やご意見、お問い合わせは下記連絡先までお願いします。

#### <連絡先>

諏訪市教育委員会 教育総務課 教育企画係

TEL : 52-4141 (内線469) FAX 53-8299

E-mail : kyoiku@city.suwa.lg.jp